

令和2年度

事業報告

聖母乳児院

1. 組織、運営、経営の強化

- ① 経営、運営、財務に関する知識の深化、経営課題の明確化、共有化を図る
 - ・ 外部環境の変化に伴う経営状況、経営課題について、運営会議及び職員会議内で説明の機会を設け、明確化、共有化を図った。
- ② 法人及び施設の理念・基本方針を具現化する職員集団を形成し、組織力強化を図る
 - ・ 個々の職員が、組織の一員としての自覚を持ち実践、行動できるよう意識づけを図った。概ね計画に沿って取り組みを進められたが、中堅・リーダー職員の行動化について課題が残った。

2. 職員の資質向上と人材育成マネジメント

- ① 主任・リーダー・各専門職種の役割と責任を明確化し、共有化を図る
 - ・ 業務分掌表に基づき、全体周知と共有化を図った。業務内容及び周知方法について見直しが必要との意見あり。来年度も継続する。
- ② マニュアルに基づく業務遂行と業務改善の取り組みを進める
 - ・ マニュアルに基づく業務遂行が意識化され、改善に繋げることができた。来年度はさらに取り組み強化を図りたい。
- ③ キャリアパス体系の見直しと共有化を図り、個別研修計画に反映させる
 - ・ キャリアパス体系見直しを踏まえ、院内研修を実施。個別研修計画に沿ってオンライン研修の受講を勧めることができた。個別の研修評価、到達度の確認時期及び方法について課題が残った。
- ④ 研修体系に基づく院内外研修実施と研修評価の仕組みを機能させる
 - ・ アンケートや研修受講復命書による研修評価を実施。結果を研修委員で共有し、内容及び方法の改善に繋げることができた。
- ⑤ 職員相互に学び高め合う風土づくり（自主勉強会の推奨）
 - ・ クラス及びグループでテーマを決め、計画的に学習を進めることができた。来年度も継続する。

3. 子どもの育ちの保障

- ① 子どもの「こころ」と「からだ」を育む環境を見直し、支援の質の向上を図る
 - ・ 全国乳児福祉協議会発行の研修冊子を活用しながら学びを深め、支援に活かすことができた。生活環境についての検討内容をもとに来年度の環境整備に繋げたい。
- ② チーム養育のあり方を検討し、養育の連続性を確保する
 - ・ 子どもの発達段階や新規入所に伴う移行練習、職員のクラス間異動を通して養育の連続性、チーム養育のあり方について考える機会が増え、支援内容・方法を共有しながら取り組むことができた。
- ③ 共通の発達指標をもとに子どもの育ちを評価し、支援内容に反映させる
 - ・ 保育会議資料を見直したことにより、自立支援計画に基づく支援方針の策定が意識づけられ、より具体的な実践に繋がられるようになった。
- ④ 医療・療育を必要とする子どもの支援体制の充実を図る
 - ・ 嘱託医不在時の対応について検討、周知し、医療機関との連携の下、感染症流行及び重症化を防ぐことができた。

4. 子どもの権利擁護

- ① 職員倫理規程、行動指針、チェックリストを活用した養育の振り返りと権利侵害の

未然防止を図る

- チェックリストによる自己評価にとどまらず、事例検討、「子どもの虹情報研修センターミニ講座」視聴、ロールプレイ等を通して養育の振り返りを実施した。不適切な関わりを指摘しにくい状況をさらに改善できるよう、取り組みを進めたい。
- ② リスクマネジメント体制を強化し、安心安全な生活環境を確保する
- ヒヤリハット事案が挙がる前に事故に至るケースが数例あり。危険予知トレーニング等を通して危険予測や環境設定について意識化を図った。来年度も継続する。

5. 関係機関との連携

- ① 関係機関との連携を図り、子どもの代弁者として最善の利益を追求する
- 医療機関、療育機関との連携は十分とれていた。児童相談所への働きかけにより保護者との交流を開始したケースが増えた。連絡方法及び家庭状況の把握についてさらに改善が必要である。

6. 地域支援、保護者支援、里親支援の充実

- ① 地域支援における基本姿勢を明確化し、子育て支援のための社会資源として認知度を高める取組を進める
- 新型コロナウイルス感染症対策の影響で限定的な取り組みにとどまり、認知度を高めるまでには至らなかった。
- ② 保護者、里親に対する基本姿勢を明確化し、支援の質の向上を図る
- 新型コロナウイルス感染症対策として面会方法を見直し、対応職員を固定したことから、交流経過の確認、共有がしやすくなった。保護者、里親との信頼関係構築にも繋がった。
- ③ 『育児の手引き』『里親の手引き』の改訂を進める
- 改訂チームメンバーを選定、従来の手引き記載内容の精査、項目整理を進め、改訂版を作成することができた。

7. フォスタリング事業の取り組み

- ① 里親トレーニング事業の実施
- 新潟県の委託事業として、「フォスタリングチェンジ・プログラム体験講座」「コモンセンスペアレンティング幼児版紹介講座及び連続講座」（オンライン講座）を実施。里親養育の質の向上に貢献することができた。
- ② 未委託里親トレーニングプログラムの作成
- トレーニングに必要な項目の確認にとどまり、プログラム作成には至らなかった。
- ③ 里親トレーニングプログラム指導者養成のための研修受講
- 「フォスタリング機関職員研修（令和3年1月）」1名、「フォスタリングチェンジ・プログラムファシリテーター養成講座（令和3年3月）」2名受講。

8. 第三者評価の取り組み

- ① 昨年度までの自己評価結果に基づき準備を進め、第三者評価を受審する
- 新型コロナウイルス感染の情勢を踏まえ、受審延期とした。自己評価は予定通り実施できた。

9. 施設設備整備

- ① 地域支援センターの建設
- 計画に沿って工事が進められ、建物が完成した。外構工事は来年度実施。
- ② 快適な環境の整備と必要な修繕、維持管理
- 必要な修繕、維持管理を実施できた。生活環境について今年度検討した内容をもとに、来年度の環境整備に繋げたい。